

令和2年度 地域おこし協力隊 事業報告書

美作市役所企画情報課

令和3年3月23日

目次

2年目の隊員(6名)

- ・河原田 高雄（梶並地区自治振興協議会） 1



- ・江口 直輝（美作市役所社会教育課） 6



- ・岡野 紘子（上山地区自治振興協議会） 11



- ・赤坂 晃靖（上山地区自治振興協議会） 15



- ・ 蟻正 敏雅（上山地区自治振興協議会） 23



- ・ 中島 純一（美作市役所都市住宅課） 29



1年目の隊員(5名)

- ・ 上伊倉 紀美（勝田観光振興会） 35



- ・ 宇都宮 健二（右手養魚センター） 40



・米山 吉将（東栗倉地域自治振興協議会） 46



・島津 めい（東栗倉地域自治振興協議会） 51



・關 竜太（栗井地区自治振興協議会） 55



令和2年度 事業報告書(2年目)

令和3年3月吉日
梶並地区地域おこし協力隊
河原田 高雄

将来の目標

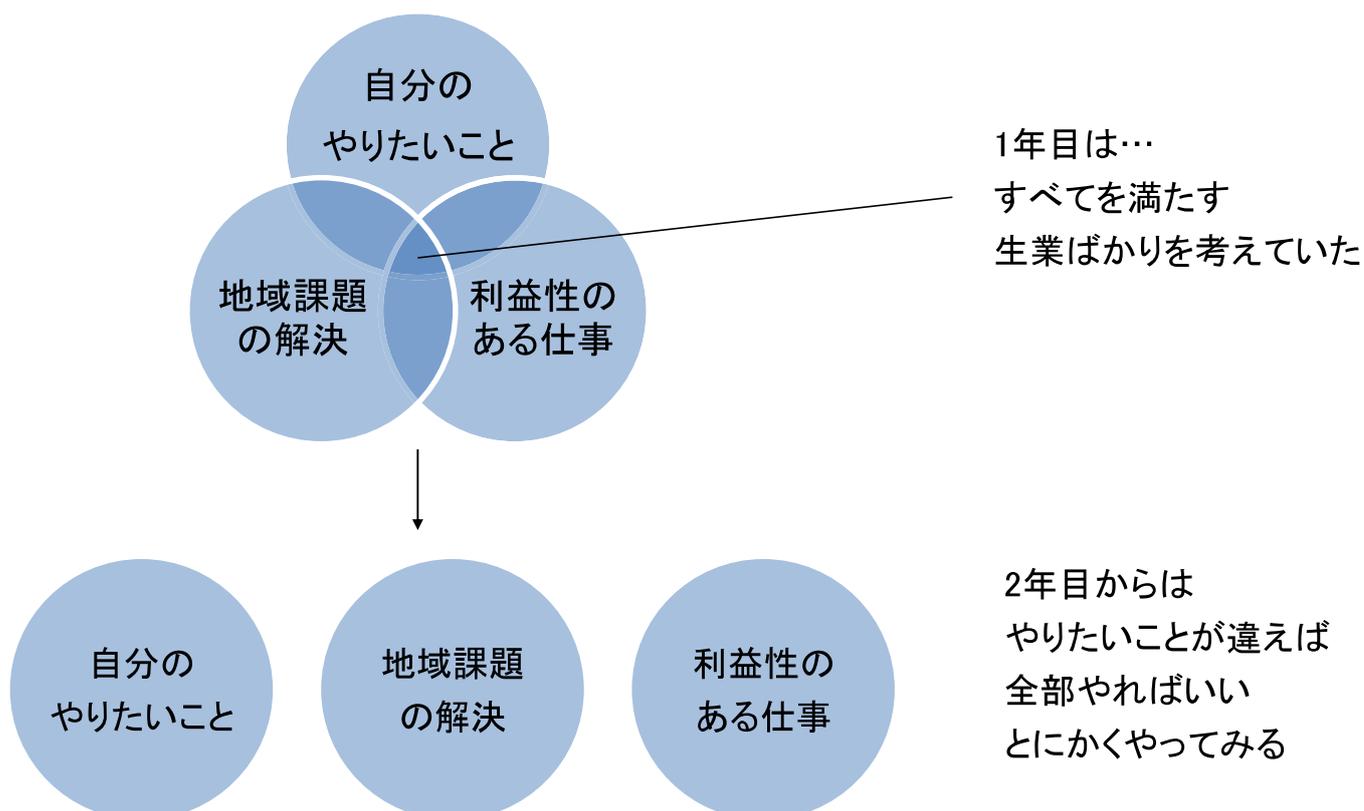
地域の特産品作りや販路拡大を
生業とし協力隊卒業後も
梶並で生活したい



協力隊活動の目的

- 将来の生業づくりのため自分のやりたい事を見つけ準備する
- 地域の理解とコミュニケーションを深め
応援してもらえる関係性を作る

2年目の活動方針



生業づくりのための活動



そば打ち(水まわし)



そば打ち(角出し)



そば打ち(そば切)



手作り味噌

■活動の狙い

- ・自発的にモノづくりをやり、手法をマスターする
- ・できたものを試験的に配ったり売ってみて販売活動をしてみる

■成果

- ・そば打ちの基本がマスターできた(あとは練習)
- ・手作り味噌を知り合いを中心に販売できた(4件)

■今後の課題

- ・コロナ後にワークショップやイベント出店をしたい

生業づくりのための活動



刺身こんにゃく作り



こんにゃく販促POP



そば粉製粉

■活動の狙い

- ・地域の農産物(こんにゃく・芋・そば)を使った加工品作りを体験し勉強する
- ・販促方法を考え意見を出し、やってみる
- ・新しい特産品作りのヒントにする

■成果

- ・特産品作りの難しさや課題が理解できた
- ・利益や原価、人件費など大まかな数字のイメージができた
- ・製造ができるようになった

■今後の課題

- ・どう特徴づけをし、利益率の高い加工品を考える

地域の理解とコミュニケーションを深める活動



こんにゃく芋収穫



そばの刈り取り



やまゆり苑の清掃(月1回)

■活動の狙い

- ・地域に溶け込み、顔と名前を覚えてもらう
- ・地域の課題を知り、自分の相談事を聞いてもらえる関係を作る

■成果と反省

- ・地域活動に参加し、少しずつ地域の方と関係づくりができてきた
- ・自発的に声をあげたり先頭に立って動く努力が足りなかった

■今後の課題

- ・さらに多くの人と接点を持ち、地域の課題解決で喜んでもらえる活動をしていきたい



地域の広報誌「かじかつだより」

3年目の活動方針

●選択と集中

やることを絞り集中してやり続ける

地産外商
地域の特産品
販路拡大

特産品作り
手打ちそば
パン作り

年間活動計画(3年目)

事業名	R2年度			R3年度									R4				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
【事業①】特産品販路拡大事業				生産者開拓			販路開拓										
				個人事業主登録			イベント出店(月に一度/第一日曜日)										
【事業②】手打ちそば	機材準備			梶並そば処に合流(毎週土日)													
	練習			準備・告知			出張そば打ち										
【事業③】パン			機材準備・相談			マニュアル作り			告知						パン作りサロン(毎週月曜日)		
																機材返却等	

ご清聴ありがとうございました



年間報告

地域おこし協力隊
江口 直輝

4月～文化財リスト作成

市内指定・未指定に関わらず文化財をリスト化
市内文化財3184件
埋蔵文化財737件



「美作市文化財保存活用地域計画」策定にあたって美作市の文化財の特徴や周遊ルートなどの活用を使用。
文化財の存在を周知することで防犯・防災にもつながるか。

番号	地域	地区	名称	解説・説文	分類		建立年月日 制作時期、和暦、西暦(年)	所在地	参考資料
1	美田	河合地区	上山小学校跡	明治8年坊の旧家屋を校舎として上山小学校が新設され、明治13年に現在地に移転、昭和6年9月中川に移転するまで複式授業を行っていた。	記念物	史跡		美作市 上山 八次	『美田町の地区誌』p166
2	美田	河合地区	朝かくし	中川の芦屋地内にある。若衆で囲まれた旧道でここで天文年間(1532年ごろ)渋谷氏が宇喜多家に伏兵の急撃されたという。	記念物	史跡		美作市 中川	『美田町の文化財』
3	美田	河合地区	上山の狐山跡	上山東の段にある狐山跡。猿、桐産出。領区7万8千2百29石。『豊美記』に記載される美作天平造元年に発掘された鎌倉の狐山といわれている。慶長年間再築したという。大正年間には狐山伊達屋敷が所有するが停止していた。慶長年間には狐の産地として盛んであったといわれ慶長年間には新しい産出量を持ったことから「慶長狐山」と呼ばれるようになった。狐山の守護神として行者様を祭祀したという。	記念物	史跡		美作市 上山	『美田町の文化財』『美田町史』『美田郡史考』『美田町の地区誌』p170
4	美田	河合地区	神社跡	上山の妙見山頂上付近にあり、古い神社の跡である。	記念物	史跡		美作市 上山	『美田町の文化財』
5	美田	河合地区	妙徳寺のツバキ	推定樹齢100年。	記念物	天然記念物		美作市 上山	『美作作路 名木百選』『美田町の地区誌』p154
6	美田	河合地区	蕨原のカゴノキ	推定樹齢400年。『美作作路 名木百選』には上山のカゴノキと記載。	記念物	天然記念物		美作市 上山 蕨原の上	『美作作路 名木百選』p30 『美田の巨樹・銘木』p158
7	美田	河合地区	上山神社のフジ	推定樹齢150年。境内の塹の木に絡みついて延びている。	記念物	天然記念物		美作市 上山1483	『美作作路 名木百選』
8	美田	河合地区	上山のカキ	樹齢約300年、樹高15m、目通2.9m。『龍治平のカキ』と記載。	記念物	天然記念物		美作市 上山2563	『美田町の巨樹・名木』
9	美田	河合地区	徳原家のサカキ	樹齢約250年、樹高12m、目通1.7m	記念物	天然記念物		美作市 上山456	『美田町の文化財』

・4月 武蔵資料館展示替え



1月末に展示替えをしたが刀は保存のため3か月ごとに展示替えを行う。
また作東美術館入り口に設置されている正子公也氏の宮本武蔵とお通のイラストを武蔵資料館へ展示

・7月キッズチャレンジ



市内小学生を対象に里山公園内の古墳の紹介を実施。
古墳の概要や別所2号墳の見学を行う。

・2月 文化財講座(勝田地区)「古代の勝田のロマンを語る」開催



美作市文化財講座
古代の勝田のロマンを語る

● 日 時 令和2年 11月21日(土)
13時30分～15時45分

● 場 所 美作市かつた市民センター
(真加部1611-1)

● 講座内容 「古代の勝田」
美作市文化財保護委員 橋本 慧司 氏
「矢田条里田・真加部条里田と
観音堂古墳」
美作市文化財保護委員 森上 澄雄 氏
「尾並神社と当人祭」
美作市文化財保護委員 高阪 皓一 氏

● 申込方法 **先着 50名** **入場無料**

本講座は新型コロナウイルス対策のための
**11月4日(水)午前9時から電話・
社会教育課窓口にて受付開始。**
定員に達し次第締め切らせていただきます。
当日参加はお受けできません。
受講者には入場券を交付しますので当日必
ず持参ください。
都合は電話やウェブの要項にご確認ください。

教育委員会社会教育課
0869-27-2900

協賛 美作市教育委員会・美作市文化財保護委員会

昨年度2回開催した文化財講座を開催。今回は勝田地区を取り上げ当人祭りや真加部観音堂古墳について解説。新型コロナウイルス対策として受講者を50名までとして実施。

・地域計画策定にあたっての調査



地域計画策定にあたり、協議会委員による文化財の市内巡回や東栗倉の地形に関する調査を実施。3月下旬には市内の鉾山に関する調査を実施予定

12月 ドローン講習



12月末にA D Aにて受講
発掘調査や文化財の航空写真撮影のために使用予定

市内資料館の案内

小学生の課外授業として英田歴民俗資料館と作東歴史民俗資料館での資料館案内を実施

・ 12月～ 湯郷発掘調査



小学校前遺跡の発掘調査に参加。

令和2年活動報告

美作市上山地区地域おこし協力隊 岡野紘子

令和2年度の地域おこし協力隊としてH29.4～上山地区で活動を開始し始め、2年目となるこの1年間の活動報告をさせていただきます。

活動を大きく3つの項目に分け、それぞれ報告すると同時に今後の展望を述べさせていただきたいと思えます。

①放棄地再生

上山地区の協力隊のミッションとして放棄地となった棚田を再生する、再生した棚田を活用・維持していくということがあります。

・放棄地再生



- ・草刈り(協力隊OBの方が既に笹・竹藪を切り開いた箇所の管理。一部梅畑になっている)
- ・お米づくり(草刈り、水路掃除、田起こし、代掻き、田植え、除草・水管理、稲刈り、粃摺り)
出来るだけ無農薬に近い形で栽培。



・畑作り(放棄地となった場所を開墾し耕作)

これからの社会の動向や健康に関することを考慮し、固定種の野菜の無農薬・無化学肥料栽培を開始
肥料も自然のものを使って自身で作成。

野菜だけでなく「スペルト小麦」というアレルギーのおき難い小麦を栽培。

今後も草刈り管理のみしている場所を開墾し作付けしていく予定。



②資源の活用、文化の継続

現在上山（中山間地）で活用できる資源を発見し活用したり、徐々に途絶えていきそうな手仕事を継続していくことで、里山での暮らし方や不安定とも思える今後の経済や社会の中での生き方の提案を行っている。

・味噌作り

材料となるお米、豆は上山で育てたもの。麴も種麴から作ったものを使用。

上山でWSを開催し（大人、子供含め15人ほど参加）、上山以外でも講師として自身で味噌を作ることの大切さを伝える。

・こんにゃく作り

地元の方からこんにゃく作りを伝授してもらい、自身でも作り方を学び、WSと言う形で他の人にも伝授。 など、

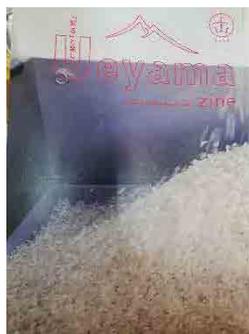
消費するばかりでなく、自身で生産し循環していくような暮らし方を地元の方から教わったりしながら習得し、伝えている。

使用する原料もなるべく自分で作ったものや自然から得られるものを使い、その大切さも一緒に伝えている。



・マガジン作成

年に一度上山集楽のマガジンを発刊しており、今回は地元の方や上山の商品に重点を置いて作成。各イベントや視察の際などに配布している。



・桧蒸留水作成。

放棄された人工林を間伐した際にでた、捨てられるはずの桧の枝葉を使って蒸留水を作成。

桧の蒸留水には抗菌、消臭、リラックス効果等があり、現代には必要だと思われるので商品化を進めている。

③薬草

里山には沢山の野草が自生している。野草の中には生薬（漢方薬）として扱われる植物もたくさんあり、その薬草を世に広めるための活動を行っている。

また不調を訴える方や、健康を維持したい方の相談も受け、アドバイス等を行っている。

・ 薬草茶づくり

15種類ほどの単品での薬草茶に加え季節に合わせたブレンド薬草茶を作成し販売。

岡山県内のお店でもお取り扱いあり。

また個々の体調に合わせたブレンドも行っている。

・ 食べる薬草

野草はお茶とするだけでなく、野菜と同じように料理して食べることができる。

そのことを知っていただき、自身でも活用してもらえるように SNS で食べ方等の投稿やイベントに薬草料理を出店。

(英田公民館で好皆館カフェにて薬草スイーツを提供したり、倉敷で行われたマルシェに出店、大芦高原キャンプ場の管理棟内で毎月第3土曜日に薬草ドリンク等を出店など)

また手軽に食べれたり、有効成分を摂取できるような商品も開発。

(ハコベ塩、タンポポ蜜、梅肉エキス、薬草ふりかけ、薬草グラノーラなど)



・ 講座

薬草について知ってもらうために上山内外で講座を行っている。

コロナにより例年行っている講座の自粛もしたが、

上山内にある「お山のおうちえん」で親子向けの薬草も見分け方講座や福山地区での薬草講座等開催。



- ・薬草栽培

薬草は自生したものだけでなく、栽培も行っている。

しかし薬草栽培についてのノウハウは資料として残されていないため、実験しながらの栽培。

(令和2年はビワ、はと麦、藍、紅花、紫蘇、ヤブカンゾウ、黒豆等の栽培)



- ・薬膳による健康増進

食事による健康維持や体調不良の改善についてアドバイスできるよう薬膳指導員の資格を取得。

健康増進やお悩み相談など、依頼に応じて食事方法や摂取したい薬草などをオーダーメイドで提案していけるよう計画中。(随時依頼は募集中)

以上が1年間での活動報告になります。

最後まで

ご高覧いただきありがとうございます。

令和2年度 活動報告

上山地区 赤坂晃靖

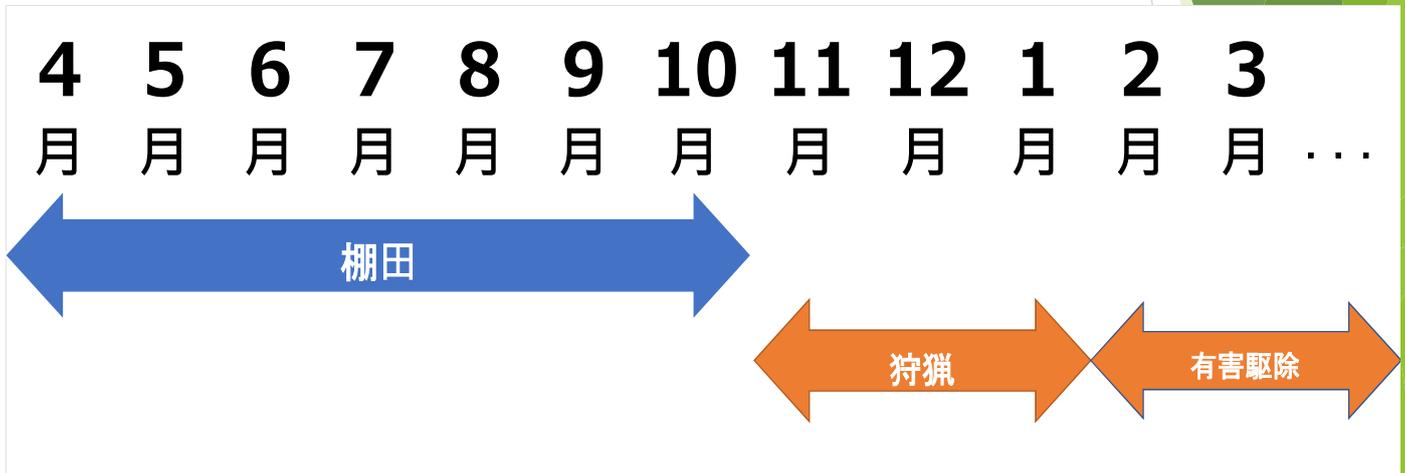
▼目次▼

I. 年間スケジュール

II. 棚田のこと

III. 狩猟のこと

I. 年間スケジュール



II. 棚田のこと ①

▼田起こし



▼代かき



Ⅱ. 棚田のこと ②

▼田植え



▼生育中

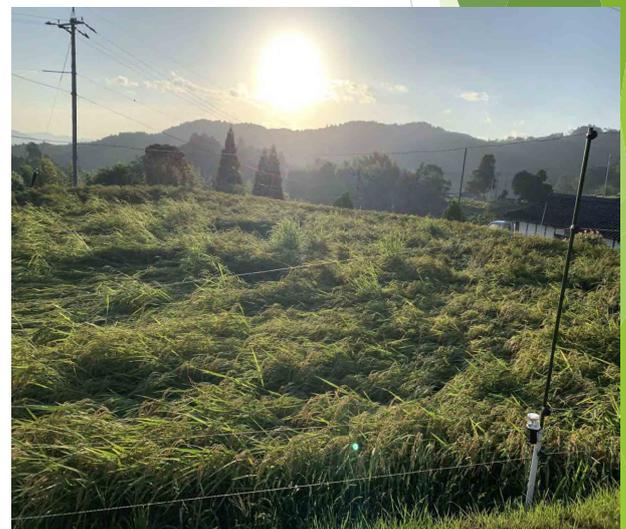


Ⅱ. 棚田のこと ③

▼畦、崩れる



▼台風・獣害



Ⅱ．棚田のこと ④

▼稲刈り・ハゼ干し



Ⅱ．棚田のこと ⑤

▼一年を振り返って

- 体調管理の難しさを感じた一年になった。見回り、水の管理など毎日の作業をこなせるだけの体調管理が必要である。
- 畦が崩れる、獣に侵入される、虫が発生すると問題が多く、収量が少なくなってしまった。
- コロナの影響もあり、田植え、稲刈り等のイベントを開催できないことで棚田に関わる人を増やす活動はしにくかった。

Ⅲ. 狩猟のこと ①

▼捕獲頭数

鹿・・・10頭

猪・・・2頭

Ⅲ. 狩猟のこと ②

▼捕獲



Ⅲ. 狩猟のこと ③

▼猪の皮剥ぎ



▼鹿のモモ



Ⅲ. 狩猟のこと ④

▼自家消費



Ⅲ. 狩猟のこと ⑥

▼有害駆除



Ⅲ. 狩猟のこと ⑦

▼一年を振り返って

- 大きなイノシシが掛かった際は、銃を使わない止めさしの限界を感じた。
- 一月末より有害鳥獣駆除活動に参加。
- 上山地区内で、新たに罾猟を行う方が一人増えた。

～来年度に向けて～

- 一年間を通して、有害鳥獣駆除活動を安全に行うこと。
- 棚田の管理を継続しつつ、耕作放棄地の再生にも取り組みたい
- 活動拠点の整備を行う。
- 猟銃の所持に向けて準備を進めていく。

【令和二年度活動報告書】

美作市地域おこし協力隊二年生

蟻正敏雅



2021.03.13.

【令和二年度 / 主な活動（春）】

（主な個人活動）



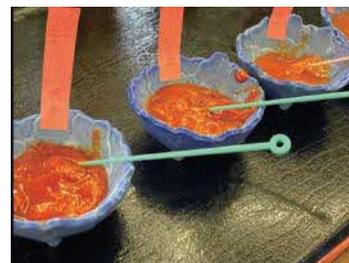
山羊を2頭買い始める

- ・ 放棄地再生した棚田の除草の手伝いのため



蓼藍栽培

- ・ 薬草の普及、認知のため染めと薬草のセット提案



米こうじ商品開発開始

- ・ 棚田米を使った商品開発



クラウドファンディング

- ・ 山での体験ツアーを作るため資金調達。約130万円

2019

4月

5月

6月

お米作り 4/29 かけいで掃除～各字の水路掃除 6/1 大芦池水落とし

（主な全体活動）

■ 種籾準備（塩水選、消毒）

■ 苗箱作り（播種）

■ 苗箱作り（散水）

■ 畦塗り

■ 代掻き

■ 田植え

■ 除草



【令和二年度 / 主な活動（夏）】



山羊の去勢

- ・飼いやすくするため
オス山羊の去勢



冊子デザイン製作

- ・鹿革製品 (tsunag.) の
カタログを作製



子ども向け藍染体験

- ・上山内にある、
「お山のおうちえん」にて
ワークショップ開催



夏祭りの運営サポート

- ・新様式での夏祭り企画 / 運営



柿渋作り

- ・放置された柿の手入れ、
資源の有効活用

7月

8月

9月

お米作り

- 除草、水路管理



【令和二年度 / 主な活動（秋）】



炭染め

- ・放棄地から切り出された資源の有効活用



笹染め

- ・放棄地から切り出された資源の有効活用



地元民への取材開始

- ・マガジンの取材を始める



古民家のゴミ出し / 改修

- ・空き家の片付け



水路掃除イベントの実施

- ・使われなくなった水路とため池の活用

10月

11月

12月

お米作り

■ 稲刈り、ハゼ干し



■ 脱穀



■ 袋詰め（ライスセンター）

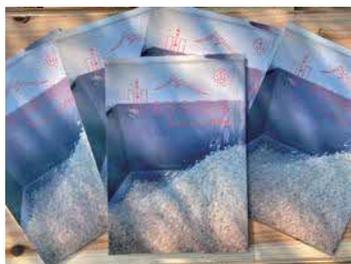


耕作放棄地の再生

■ 草刈り



【令和二年度 / 主な活動（冬）】



UEYAMA ZINE 発行

- ・上山を紹介する冊子の企画、編集



クラインガルテン管理棟

- ・使われなくなっていた管理棟の片付けと利用計画



鹿革製品の新品

- ・上山を紹介する冊子の企画、編集



テントサウナツアー

- ・テントサウナ体験の開発



糀商品を使ったレシピ

- ・商品の販売促進のためのレシピ開発

2021

1月

2月

3月

耕作放棄地の再生

■ 草刈り



■ パッケージデザイン



■ 企業さんとの共同プロジェクト開発



■ 野焼き



【令和三年度 協力隊最終年度】
クラインガルテンを中心とした
農体験や農村の暮らし体験が
出来る場を造成する。



棚田サウナ建築



美作市地域おこし協力隊 令和2年度事業報告

都市住宅課「美しい里山公園」担当
中島 純一

公園管理に関すること

- 日常のパトロール
 - 崩落箇所や倒木の発見・報告
 - 仮設トイレの管理
- 園路維持のための軽作業
 - 小規模な倒木の撤去
 - 側溝清掃

公園広報に関すること

- 里山公園公式パンフレット作製



表紙



中身

公園広報に関すること

- 広報みまさか8月号
里山公園特集 掲載



公園広報に関すること

• YouTubeチャンネル開設

- プロモーション動画
- 解説動画
- 園路紹介動画



公園広報に関すること

• みまちゃんネル出演

- みまさか情報局
 - 季節の動植物、風景等紹介
 - 各種イベント情報告知
 - 令和3年初日の出写真&ドローン空撮映像提供
- それゆけみまちゃんネル
 - 「生き物探訪@里山公園」シリーズ



モリアオガエル



ミツバツツジ



令和3年初日の出



「生き物探訪」で捕まえたシマヘビ

公園内調査に関すること

- 入園者データ集計
 - 公園入り口センサーカメラの画像データ整理
 - 2018年度は140人、2019年度（2月まで）は188人来場（栄町集計）

- 動物調査

- センサーカメラによる撮影
- パトロール時のセンサス調査
- 里山公園生き物図鑑作成
(ブログにて連載中、公式HPにも掲載予定)



ニホンアナグマ



ニホンカナヘビ

各種イベント

- 5月
 - 移動図書館車（ぶっくる号）のイベント実験
(親子2組のみ招待)



藤乃森広場でのぶっくる号イベント実験

- 7月
 - 「共生の森」切り絵展
 - ぶっくる号×スラックライン×モルック
 - 里山公園自然観察会&史跡見学会
(江口隊員とのコラボイベント)
 - 里山ネイチャーゲーム体験会



切り絵展の里山公園会場と
ぶっくる号



各種イベント

- 10月
 - 生涯学習講座「スラックライン/モルック体験会」
 - 勝田小学校 モルック体験会@さくとう山の学校
(協力隊OB中野さんからの依頼)
 - 檜原上・古池（都市公園）での鯉取り
- 11月
 - 美作北小学校学童遠足
- 2月
 - 英田BG「子ども第三の居場所」学童遠足
- 3月
 - 勝田ひまわり園学童遠足



藤乃森広場でのモルック体験



古池での池干しに合わせた鯉取り

各種資格取得

- ドローン操縦技能者
(日本自動車教習所協会)
→みまちゃんネルに空撮映像提供
- ブッシュクラフトインストラクター
(取得途中)
- ツリーイングインストラクター
(取得途中)
- 狩猟免許 (第一種銃猟、わな猟)



ドローン講習風景



ブッシュクラフトによる焚き火



藤乃森広場でのツリーイング



「狩猟生活応援塾」にて
捕獲されたシカ

来年度の予定事業

- 日常の維持管理、公園整備、情報発信の継続
- 植物、史跡の調査、情報発信
 - 他の協力隊員（野草は岡野さん、文化財は江口くん）とコラボ？
- 各種イベントの開催（教育委員会、スポーツ振興課、健康づくり推進課等と連携）
 - 学童遠足
 - モルック、スラックライン、ツリーイング体験
 - 自然観察会、ネイチャーゲーム体験会
 - 地元産材や木の実などを使った工作体験（オルゴール館、地元製材業者等との連携）
 - 里山図書館&カフェ
- 市民団体「みまさか里山クラブ（仮称）」設立
 - 市民が里山に主体的に関わっていくシステム
 - 高齢世代から若者世代への里山文化、技術の継承

協力隊任期終了後の活動について

- 美しい里山公園を始め美作市内の各自然観光施設等へ出張しての自然体験プログラム提供
 - ツリーイング体験（ドローンによる樹上での記念撮影含む）
 - ブッシュクラフト教室（市内各キャンプ場等）
 - 事業が軌道に乗れば湯郷の空店舗を借り、事務所 兼 国産淡水魚水族館に
→温泉観光客を対象に塩垂山、里山公園等でのツリーイング体験
- 市内学校、幼稚園、市民団体等を対象にした自然学習プログラム提供
 - 上記体験に加え、自然観察会、ネイチャーゲーム体験会 等
- 狩猟・有害鳥獣駆除活動

令和2年度 事業報告書

令和2年度
美作市地域おこし協力隊
上伊倉 紀美



自己紹介

- 出身：三重県名張市（東京、大阪、京都にも在住経験有り）
- 経歴：名張市において（ギャラリー）『遊器庵』を運営。この間、イベント企画団体「らくだ企画」を主宰し、地域活性化のための行事を手がける。

私のミッション

勝田地域の観光振興

勝田観光振興会事務局

- ・ 会計事務
- ・ イベント企画実施
- ・ 観光拠点開発整備

地域の魅力(再)発見

第2回「梶の葉の七夕」に参加し運営に協力（2018）以来、この地域の活性化に尽力したい。との思いで、協力隊に応募。

私



梶並地区活性化推進委員会の皆さんと▶

観光振興会事務局として①

会計事務

年間予算380万円の収支計理事務

新しくデザイン作成した幟▶

イベント企画・実施

新規イベントの企画・実施

（勝田ひまわり市、イルミネーションなど）

イベントツールの制作・活用

（幟・提灯・ロゴシール）

ロゴ・マーク▼



新規イベントの企画（勝田ひまわり市）

▼ひまわり市（冬）作成プログラム案<中止>



▼ひまわり市（夏）イメージ



軽トラ市（イメージ）

観光振興会事務局として②

観光拠点開発整備

山村茶屋の造園

コミュニケーションスペースとして
「ハーブガーデン・ミニ」を整備中



令和3年度目標＝ハーブの知識を深め
その活用により観光拠点を充実する。

地域の魅力(再)発見①

不用？と思われるものの活用①

すすき⇒すすき箒の製作（WORKSHOPの開催）

隈 笹⇒隈笹茶の製造

葛 ⇒葛茶の製造

ドクダミ⇒ドクダミ茶の製造

竹 ⇒竹の飯盒・竹徳利の製造

そばのふすま⇒そばクッキー

セイタカアワダチソウ⇒入浴剤へ

※黒字は、製品として製作済み



不用？と思われるものの活用②

隈笹を採取



乾燥・裁断し焙じる



※クマザサには、多くの薬効が証明されている。

竹の活用



※竹林の整備を兼ねて間伐竹を有効に活用
(竹の飯盒・竹のキャンプ用グッズとし提供予定)

地域の魅力（再）発見②

- 地域では、魅力と思われていない?ものの情報発信



地域の魅力を発信できる
観光パンフの制作
(令和3年度目標)



美作市地域おこし協力隊一年生

令和二年度事業報告書

右手地区 有限会社右手養魚センター担当

宇都宮 健二

概略

令和二年度の美作市地域おこし協力隊として十月に右手地区にある有限会社右手養魚センターに着任し活動を開始しました。

右手養魚センターはサケ科の魚であるアマゴ・イワナ・ニジマスを養殖して旅館や飲食店への販売や溪流釣り場の運営を行なっている会社で、任期終了後は右手養魚センターの後継者として経営を担う予定ですので、これまでに就いた職で得た経験や知識を活かし生産コストの低減や生産管理の円滑化を進めて品質や納期の面で顧客のニーズに確実に答え新たなサービスの提案や商品の開発を実行し、関係する全ての人から信頼される会社を運営することを目標としています。

担当業務は、給餌・サイズの選別・焼き魚調理・飲食店への配達・釣り客に対する案内・受付・放流を主としており十一月には採卵から孵化までの人工孵化を経験しました。

一年通しての経験がありませんので繁忙期の生産量は過去のデータに頼るしかないのでありますが、コロナ禍ということもあり旅館や飲食店への販売が激減している現在の状況では例年の出荷量を基として給餌量や池における魚の密度をコントロールし、出荷の増減に迅速に対応できる生産計画を立てて釣り場では放流量を増量する等の販売戦略で対応しています。生育状況を詳細に調整することで必要な時に必要な量を用意できる様に日々努めており、養殖業にとって死活問題になりかねない様々な病気や使用できる薬品についての知識を得るために水産試験場で研修を受ける計画を立てています。

着任からの五か月間で経験したこと、これから実践することを述べさせていただきたいと思えます。

- ① 美しく顧客に喜ばれるアマゴと水産資源として有利なアマゴ生産の両立
- ② 給餌コストの削減と魚種や魚体長に対する使用餌の明確化と消費量管理の見直し
- ③ 養魚池の衛生管理の向上とそれに伴う作業の改善
- ④ 当施設のサービス充実と周辺施設との情報の共有化や合同イベントの開催
- ⑤ 耕作放棄地の有効活用と地域の特産となる農産物の栽培

- ⑥ 右手地域の住人として
- ⑦ 来年度の活動予定

① 美しく顧客に喜ばれるアマゴと水産資源として有利なアマゴ生産の両立

養殖魚は養魚池という限られたスペースで生育するため天然魚と比較してヒレの傷みが生じやすく、また、大多数が生涯を淡水で過ごすアマゴの中にもサケ科魚類の特徴として降海型が存在し、パーマークと呼ばれる斑模様が消えて鱗は大きくなり淡水と海水の浸透圧の差に適応するためにスマルト化と呼ばれる順応が起こる個体が各地の養殖場で多く出現しており魚体が早く大きくなるため水産資源として望ましい反面、アマゴ特有の美しさの象徴でもあるパーマークが薄いことで釣り客からは残念がられる意見もありました。

ヒレの傷みについては魚同士の接触が原因のためサイズ選別を適期実施して密飼いを避けることで対策し成果を得ることができました。

神戸大学大学院の発表によるとスマルト化個体が出現する一年目秋までの生育を管理し体長がある閾値を超えない様に給餌調整することでスマルト化の抑制が実現、尚且つ雌のスマルト化発生率が高いとされているため、採卵用として一年目秋以降に雄雌が混在する中からスマルト化していない雌を選抜する際の精度向上に繋がると思われます。

二年目秋に人工孵化を行なう際に雌は雄の五倍程度の数が必要でその時には雄雌それぞれ特徴があるのですが、一年目の選抜時には雄雌の判別がつき難いため誤判別により採卵数が計画数に満たない場合は受精卵を購入するコストが掛かることや時期的な理由で入手すら困難な場合が想定されるために必要な雌の倍以上の数をランダムに採取したほうが良いという意見もありましたが、採取以降一年もの期間において必要数を大幅に超える魚を飼育することとなり膨大な餌コストが必要となります。

秋の時点で閾値を超えない様な生育をさせるには、生育期間が二か月程度長期化することによる養魚池の確保等の課題はありますが、採卵用親アマゴの選抜は魚体の遺伝情報を重んじパーマークや朱点が特に美しい雌を選抜する作業なので過半数が雄の中から雌を選り分けるよりも雌の分母拡大がより美しいアマゴの完全養殖に有効と考えられます。

また、温暖化が進んだ近年の環境では冷水を好むアマゴにとって夏季の病気発生や生育遅延が想定されますので非スマルト化の生産とは別に、一月の孵化から高水温期までの半年間で出荷時期が推測できる大きさまで一定数は育成する必要があり意図的に発生させるスマルト化アマゴは早く成魚サイズに成長するため秋季には販売が可能となり出荷の必要がなかった場合にはさらに大きく育てて、二年目春以降には釣り用として生産している大型のイワナやニジマスと同様の目玉商品にしたいと考えております。

飼育管理を見直すことによるスマルト化アマゴの発生率低減及びアマゴとスマルト化アマゴとの生産両立の飼育実験をする予定です。



閾値を超えてスモルト化したアマゴ

閾値に達せず非スモルト化アマゴ

② 給餌コストの低減と魚種や魚体長に対する使用餌の明確化と消費量管理の見直し

餌の価格上昇は経営を圧迫する要因であり改善の余地がありますので生育や食味に影響が出ない前提でコスト低減に繋がる餌を探して試す必要があります。

餌の成分を調べたところ、原材料の一つに安価かつ入手が容易な資材がありますので数十匹程度の単位で従来使用してきた餌との生育比較実験を実施する予定です。

生育に影響なく実用できれば二年間という生育期間のうち1/4程度の期間を占める稚魚期の給餌コストが半減し、トータル期間においても1/8もの給餌コストを低減できる可能性があります。従来品との混合使用でも1/16の低減を見込むことができます。

餌は魚種や寸度に応じて10種程度の餌を使い分けていますが、都度最適な餌を選択するのに経験が必要ですので餌品名に対して魚種・目安体長・給餌量・対象池をそれぞれ表示したプレートを掲示し、担当者の休日対応に当たる者や経験の浅い新人でも適切な給餌ができるように考えております。

今後、生育や出荷状況にもよりますが、ひと月毎に各種餌の使用量を控えデータ化していくことで在庫管理や発注が容易になると思われます。

③ 養魚池の衛生管理の向上とそれに伴う作業の改善

大量死の原因となる病気についても学ばなければなりません。養魚池に堆積する餌の食べ残しや糞の掃除をこまめに行なうことで衛生状態が改善し、堆積物より発生していたガスが発生しなくなったことにより病気や酸欠による死魚が減少しています。

養魚池のコンクリート底面が常に見える様になり餌の食べ残しが目視できることで餌の大きさや給餌量を変更する時には適性の判断材料とし、水温変化の影響や病気の発生等の健康状態が判断し易くなり給餌ロスの低減にも繋がりました。

養魚池の掃除は水を抜いて行なうのですが、以前の様に完全には抜ききらず半分程度しか抜かないことにより魚へのストレスや腹ビレの摩耗が軽減しました。

水を完全に抜かないことで堆積物が排除しきれませんが水切りワイパーの使用や掃除の頻度を増やすことで対応しています。

水止めの木板も傷んでおり、木板を入れるコンクリートの溝の劣化も激しいためビニールシートを併用しても水漏れが止まり難く清掃後の水張りの際にやり直すことが多いため特殊な端面の木板と樹脂板（プラダン）の使用を検討しております。

④ 当施設のサービス充実と周辺施設との情報の共有化や合同イベントの開催

釣り場の環境向上のためパワーショベルの資格を取得し釣り場の整備に生かす予定です。常に施設内を巡回して釣り場の特徴を把握し、人数・経験・性別・年齢など様々な層のお客様の要望に対し的確で迅速な対応を心掛け20年以上蓄積した溪流釣りの経験を活かして初心者やファミリーのお客様には魚の習性や釣り方をレクチャーして、確実に釣って楽しんでいただき満足度やリピート率の向上に繋がるよう接客しており閑散期には親子釣り教室を主催して新規顧客の獲得に繋がるイベントを開催する予定です。

全国的にブームになりつつあるテンカラ釣り（和式毛バリ釣り）は釣りをできる管理釣り場が少ないので新たな顧客層として重要な販路とし、令和三年度は当施設がテンカラ釣り可能な管理釣り場としてアピールする情報発信をしていきます。

当施設で急増するルアーやフライフィッシングのお客様には意見を伺い、当施設の釣り場では川幅・バックスペース・魚種・魚のサイズに不満をお持ちの方があることから将来的には水源が確保できる付近の耕作放棄地に池を作りルアー及びフライフィッシング専用釣り場を開設することも考慮しています。

隣接する施設のトム・ソーヤー冒険村とは互いのお客様が行き来することも多く、今春には津谷キャンプ場がオープンすることにより来客増が見込めますので、連携を深め情報を共有することで共存共栄させられる手法を提案して相乗効果を得られる様に相互利用者への割引サービス等の実施や釣りとキャンプを絡めたアウトドアならではのイベントを共同企画しSNS等を通じて情報を発信していくことを考えています。

また、ホームページ上で美作市内の観光施設をリンクさせることで全体の発展に繋がると確信しております。



みまちゃんネル河本氏にレクチャーしました



釣り場の様子です

⑤ 休耕田の有効活用と地域の特産となる農産物の栽培

地元の姫路では家庭菜園を趣味としており、様々な野菜の栽培とは別に将来的には販売する目的でイチジクや自然薯を栽培していますが、害獣や天候不順の影響もあって収量こそ安定しないものの着実に栽培経験を積んでいます。

イチジクは熊の出没原因となることが想定されるうえ右手地区は寒冷地であり気候が適していないので栽培できませんが、健康意識の高い現代社会において栄養価の高い自然薯は単価も高く100グラム当たり150円以上と採算性が良いこと・耕作放棄地が多いこと・寒暖差が大きく夜露が降り葉面から水分を得られること・天然物が周囲に多く自生し土質が適していると思われること・山間部のイメージを活かしブランド化しやすいこと等の理由から右手養魚センター所有の休耕田で栽培する予定です。

昨年に自然薯の種芋を100本、長芋の種芋を200本程度生産していますのでまずはその本数から生産して秀品率と販売実績を考慮し、売上高が順調に伸びれば周辺地域の耕作放棄地の活用や雇用の促進に貢献できればと思います。

形状が良い物は高単価で取引されるのですが、形状が悪い物も飲食店に納入でき加工品として販売できる利点もあります。

また、養魚池の水路や潤沢な川砂を利用してワサビ栽培を行なう計画も立てており、魚とのセットで付加価値を高めることができれば販売にも有利になると考えております。

⑥ 右手地域の住人として

右手養魚センターまで徒歩三分の右手地区立木に居住していて飼育を担当している養魚池も同程度の距離にあり、家の前には養魚池の水源や釣り場としている川が流れているので大雨の時などは川の水位上昇量を確認したうえで池のパトロールに行くことができる好立地のため任期後も継続して住みたいと考えております。

11月以降の期間で風雨により三回も落ち葉が水路に詰まる状況になったことがあり、一度は深夜パトロールで魚の大量死を未然に防ぐことができました。

また、右手養魚センターの経営に携わる前提ですので地域の行事等にも参加させていただいており青年団に加入、今後は消防団にも加入し花見会やひらめ祭りのイベントにも参加する予定です。

⑦ 令和三年度の活動予定

令和二年度は特に成果を上げることができておりませんが、令和三年度の活動としまして

- 1) 地域行事への積極的参加
- 2) 右手養魚センターの経営を継承、養殖技術を確立し新人者に指導できるスキルの習得
- 3) 販売面で有利な特徴を持つ商品の生産と開発、販売促進イベントの開催

- 4) パンフレットを活用して釣具店や飲食店への営業活動を行ない新規顧客の獲得
- 5) SNSでの釣り場の案内やイベント開催等の情報発信を行なう
- 6) 養魚に関わるコストを見直し効率化を進めることによる生産性及び採算性の向上
- 7) 周辺施設と連携し地域全体の集客増が得られることを提案し実行する
- 8) 山間地域の耕作放棄地で生産した農産物をブランド化しての販売を予定しております。

以上が令和二年度の活動報告と令和三年度の活動予定となります。

最後までご覧いただきありがとうございました。



美作市協力隊 右手地区
宇都宮健二

**2020年度
地域おこし協力隊
活動報告**

**東粟倉地域
米山吉将**

年間スケジュール

11月

着任
地域見学

12月

地域取材
住人インタビュー
地域誌の制作開始

1月

地域誌の配布開始
(近隣地域の図書館、お店など)

2月

イベント出店にて
地域発信
来年度からの活動
の準備

年間を通して・・・

地域団体の活動への参加
他地域の協力隊の活動見学・活動報告会
地域の雪かき・見回りなど

主な活動内容

- ・ 協力隊としてのミッション

地域の情報発信

- ・ 定住後の目標

本・図書施設の運営

本での情報発信

「東栗倉 ZINE」の制作



1号目



2号目



3号目

- ・ ZINE とは？ ・ ・ 一般的な雑誌 (MAGAZINE) が商業出版であることに対し、非公式な個人出版物
- ・ ターゲット ・ ・ 田舎や移住に興味のある、市、県外の人

東栗倉という地域を知ってもらう
田舎の良さを知ってもらう
ZINEという文化を知ってもらう

ZINE について・・・

Q. なぜ ZINE なのか？

A. ネットでの発信は簡単でコストもかからないが、あえて手をかけて作ることで物としての魅力を大切にする

Q. 内容は？

A. 自分が移住してきて感じたこと = よそ者視点のリアル

地域の方の生活・営みの様子 = 田舎を身近に感じてもらう

登山、キャンプなどの体験記 = 東粟倉ではこんなことをして楽しめる!

田舎ならではの遊び!

など、年齢問わず気軽に読んでもらえるようなエンタメ性重視の内容

Q. どこでもらえるの？

A. 地域の情報発信を目的としているため、配布場所は市外の施設やイベントでの配布がメインですが、地域用の簡易版を東粟倉支所などで配布させてもらおうと現在制作しています。

ZINE に関わる活動（計画中）

全国の制作者の ZINE を集め、さまざまな ZINE の展示

ZINE の作りかたや方法などのワークショップ

ZINE の交換会（もともと ZINE は、自分の伝えたい事や思いを記し、ほかの制作者と「交換する」という方法で広まってきました。）

ZINE を配布するようになり、地域の方から「次の ZINE はまだ？」
「私も ZINE をつくってみようかな」などという声をいただきました。
まだまだ一般的に知られていない ZINE という名前ですが、このように田舎のお年寄りから自然にワードが出たことに感動しています。

これからの予定

地域サロンの運営

- ・ 地域、住人の方をより知るための場づくり
- ・ 地域の活性化
- ・ サロンを通じ協力隊のことを知ってもらう

ZINE・図書施設の運営

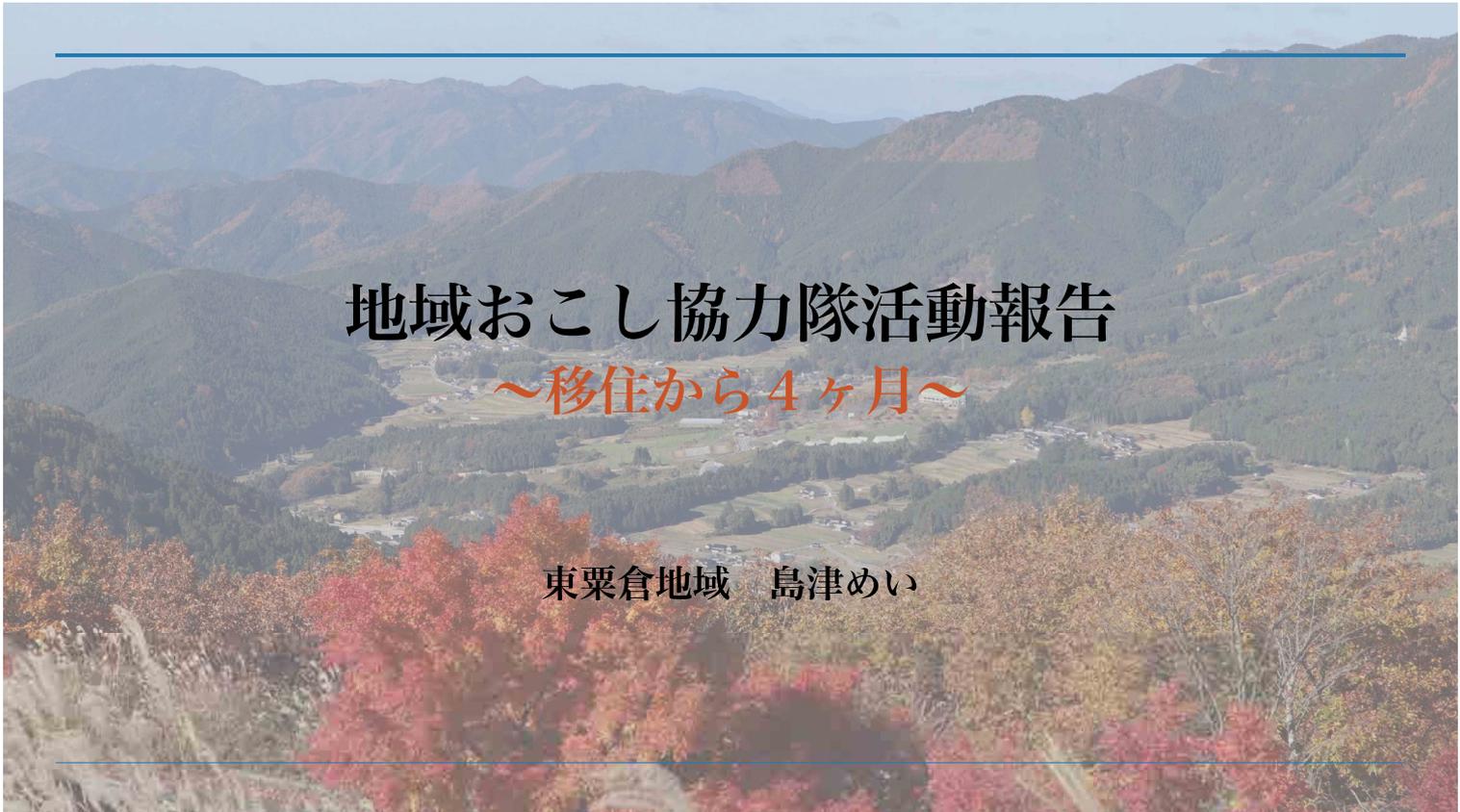
- ・ さまざまな ZINE を展示し、ZINE という文化をより多くの方に知ってもらう
- ・ ZINE に特化した施設が全国的にまだまだ少ないため、東粟倉に来てもらうきっかけとなる場所作り
- ・ 本が充実している地域は全体が充実している

東粟倉 ZINE の配布ゾーン拡大

地域内や近隣だけで終わらせず、都市の大きいブックイベントや移住フェアなどに積極的に参加し、少しでも多くのかたの目に止まるようなクオリティの向上を目指す

=

スキルが上がればデザイン系の生業作りに直結し
定住に繋がる



地域おこし協力隊活動報告

～移住から4ヶ月～

東粟倉地域 島津めい

ベルピール自然公園運営補助

- ・ 週末、来園者の接客対応
- ・ 撮影者の同行
- ・ イベント補助

コスプレイヤー、カメラマン、登山客の方々との交流ができました。

隙間時間にてwebデザイン学習。自分はグラフィックデザインが特に好きであるということを認識でき、サンプルデザイン作成後、地域で何かお手伝いはできないかというお声かけと共に資料配布。

地域交流

- ・ 愛の村元気プロジェクトの参加
- ・ 多くの人に知ってもらう為の地域探索を兼ねての「お手伝いできることありますか」等のお声かけ、交流
- ・ 地域行事の参加

地域交流



もみじ祭りののぼり設置



東栗倉小学校のしめ縄作り見学



玄関先で甘酒を
ご馳走になることも



とんど焼き

情報発信

- ・ 様々なSNSでそれぞれの特性を活かした情報発信
(写真やイラスト、ブログ形式など)
- ・ マルシェにて東粟倉の魅力を発信

SNSを見てくださった兵庫県の方が興味を持ち、普段来ることがなかったが美作市の方へ足を伸ばしてくれるようになりました。お勧めのお店など教えてくださいと連絡があったり、協力隊の制度自体に興味を持って頂けることが増えました。またそれらで繋がった方主催のイベントに参加させていただき地域のPRにも繋げることができました。

情報発信



特技のイラストや漫画でSNSで東粟倉のPR移住後の暮らし
協力隊の活動に関して発信



イベントにて東粟倉のPR、東粟倉で
体験したことの情報発信。



サロン運営の準備

- ・ 地域の方が気軽に交流できるようなサロン運営に向けて関係者へのご挨拶に参加
- ・ まずは知ってもらえるよう3月から既にあるサロンへの参加、お手伝い
- ・ 高齢者、子供などそれぞれにあった拠り所の計画

イベントなど内容を充実させればさせるほど逆に高齢者は敬遠してしまい来にくくなるとのアドバイスも頂きました。気軽にお茶を飲みながら交流ができる空間を理想としているのと、小さな図書館のような拠点を理想としています。多くの方が本に触れる機会を増やせる活動をしていきたいです。

今後の活動目標

- ・ 古物商の取得とイベント等の出店で本を扱う生業を見つける
(書店、ブックカフェ、イベント企画等...)
 - ・ 地域サロンの運営
 - ・ 学童や地域の図書館等とのコラボにて子供も楽しめるイベントなどの企画
 - ・ 行事の際のチラシやパンフレット等の作成
-

地域おこし協力隊 令和2年度(初年度)活動報告書

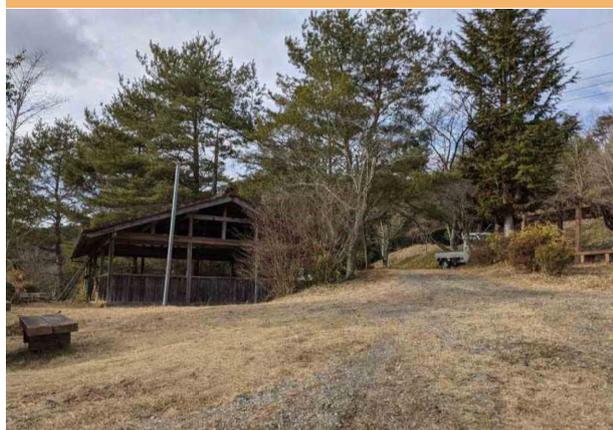
栗井地区 関 竜太

期間：令和2年12月～2月

【主体となる活動】 能登香の里小房キャンプ場の整備再生活動

栗井地区の小房にあるキャンプ場を、再び綺麗で清潔感のある賑わいあるキャンプ場に戻す活動をはじめました。

能登香の里小房キャンプ場



東屋の清掃



現状、テントが4張りほどしか張れないメインサイト周辺のテントサイト拡張のため、腐敗が進んで危険な炭焼小屋の解体と場内の草刈をしました。

炭焼小屋の解体



場内の草刈



炭焼小屋解体で出た廃材と伐採した木を薪にし、ご来場下さったお客様に無料で使っていただけるように東屋に薪とご自由にPOPを設置しました。

薪割り



薪の無料提供ができるように設置



お客様が気持ちよくキャンプを楽しんでいただけるように、場内の整備活動の際に見回るようにしております。ご来場いただいたお客様によっては、ごみを放置していかれたり禁止している直火での焚き火をされる方もいらっしゃる現状です。今後、どのように対等していくのか、地域と相談しながら対応していかなければならない課題でもあります。

放置ごみや直火等の見回り



場内の安全のための見回り



場内探索から分かった事と、今後したい事について

①既存の古い場内マップから、最新の情報の場内マップを作る

お客様から場内の正しいマップが無いことを指摘いただき、探索をした結果キャンプ場から離れた場所に実際の状態と異なる案内看板とホームページ内で発信しているマップを発見しました。現状の場内状況と明らかに異なっており、お客様が混乱しないためにも、正しい情報の場内マップを看板もとい紙パンフ等を作り、ご来場いただいたお客様へお渡しできるようにしなくてはと思いました。今後、地域の方とも協議し場内地図を作っていくと考えています。

②正しい情報発信とキャンプ場公式HP・SNSの作成公開

既存のホームページが地域のまとめサイトと以前の協力隊が作成したサイトと管理者が異なる二種類のホームページがある状態です。しかし、その内容が二種類とも情報が異なっているため、正しい情報に統一し発信しないといけない状態です。しかし、インターネット上で情報を検索する際、既存の状態ではキャンプ場として検索ワードにヒットしにくい事がわかりました。この問題をクリアし多くの方に能登香の里小房キャンプ場をしってもらう為にも正式な公式ホームページの作成が必須かと考え情報を精査し正しく発信していきたいと考えています。

③ログハウスの清掃・管理・管理棟復活

(現在の受付担当者が対応できない時の臨時対応)

現在は管理等が機能せず封鎖している状態です。そのため、利用料金を近隣に在住の受付担当者が予約があった場合のみ伺い料金を受け取っている状態です。見回り中にお聞きしたお客様からのご指摘でも利用料金を払ってない方と払った方が混在する現状があると伺い、現状を改善する必要があると感じました。管理等の復活のためにも、既存ログハウス3棟の清掃・管理し、常に管理者がキャンプ場内に常駐できるようにしたいと考えています。そのためにも、地域の方としっかりと信頼関係を築き協議していきたいです。

④ドックランを作る

岡山県兵庫県と中国地方で犬を自由に遊ばせ、飼い主様が交流を深める事のできるドックランが少ない現状があります。また、周辺地域の方にもドックランを作ってみたいとお声もいただきました。耕作放棄地等を再利用し、有効活用する方法も考えたいと思っており、そのひとつに自然豊かで犬がのびのびと遊べる周辺の静かな環境は最適な立地であり飼い主様が好むのではないかと思います。ドックランを作りたいと考えています。地域の方や地区長方とも相談をし、候補地も提案いただいたので構想を考えようと考えています。

⑤オートサイトを作る

地区長より入り口付近エリアにオートサイトを増設する提案をいただきました。土地所有者の方や地域の方々と協議し、着工に進めれるよう考えていきたいと思っております。

場内探索から分かった改善箇所と現状



①貸農園

貸し農園として提供していた畑です。現在は、貸し出しておらず耕作放棄地となっています。

②コテージ/ログハウス

2棟のコテージと1棟のログハウス(旧管理等)があります。現在、管理の人手減少と入場減少により管理棟は閉鎖しています。そのため、コテージ利用予約があった時のみ掃除に入り状態です。管理を請け負っている地域団体が設備を増設したりはしているようだが、清掃管理が行き届いていない現状であり、また、受け付け対応が現地できていない現状があります。

③ゆず園

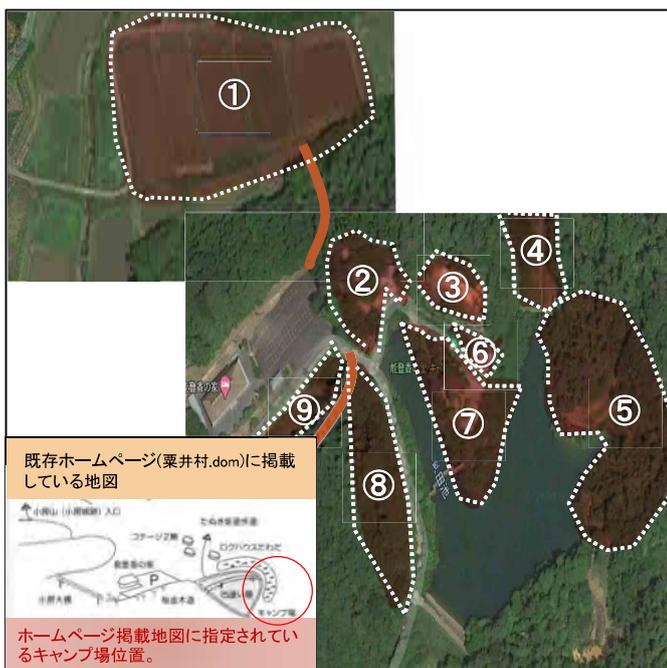
ゆず園として提供していた広場です。現在は、整地され雑草で生い茂っておりゆず園は廃止されています。以前の協力隊が養蜂場を作ろうとしたようですが、途中放棄となっております。また、土地所有者が能登香の里管理ではないため、現在はこの場所は侵入禁止となっております。

④しょうぶ園

現在は、水源が無くなり菖蒲が咲かず雑草地となっています。そのため、菖蒲園と気づかずにテントを張るお客様もみうけられます。水源を復活させ再度菖蒲が咲くように整備するか、埋め立ててテントサイトを増設するかを考える必要がある。

⑤東屋・キャンプサイト

キャンプサイトとして看板やホームページに掲載されている唯一のキャンプサイト。しかし、現在は伐採した木や腐食して倒れた倒木、草刈をした刈り草が放置されており腐葉土や腐敗臭が若干ただよっています。この件に関して、管理請負団体である区長へ相談したが、二年は放置して腐葉土し土に戻す事でゴミ処理の手間を省く方針でやっていると回答を頂きました。しかし、本来の名目上はキャンプ場であるため、お客様からも、ご指摘を受ける事もあり、清掃し再度キャンプサイトとしてテントが張れるように戻す必要がある。



⑥炭焼小屋

炭焼をするために、以前に利用されていた建物だったようです。しかし、現在は利用されず老朽化や雑草が生い茂り危険であったため地域と協議し解体しました。それにより、テントサイトが増設されました。

⑦中央東屋

現在、東屋のあるこの場所が唯一テントがはかれる実質上のキャンプサイトとなっています。しかし、ぬかるみなどがあり不安定な地面もあり、これを整地する必要があります。また、ブロックや禁止されている直火での焚き火の跡や放置炭、放置ゴミも点在しており清掃をし、整備活動の際に場内の見回りをします。

⑧しいたけ園

しいたけ園として提供していた広場です。しかし、現在は、しいたけ園は廃止され雑木林となっています。

⑨ゆず園

ゆず園として提供していた広場です。しかし、現在は、ゆず園は廃止され雑木林となっています。



企画提案



①空き地→オートサイトへ

能登香の里小房キャンプ場入り口付近のメインとなる立地なので、車が入りやすく能登香の家にも近いので絶好の場所ではないかと提案いただきました。そのために、近隣の赤磐市にあります竜天オートキャンプ場へ視察に行き、どのように管理整備をされているか管理員さんにお話を伺いに行きました。どのような構想をするかは、提案いただいた方と地域の方と協議をし、皆さんの理想に近いオートサイトが作りたいと思います。

②コテージ/ログハウス

管理棟を復活させ、ふたたび現地で受付ができるようにする。また、管理員を常駐しお客様が安全にキャンプが楽しめるようにし、清掃・整備・設備管理・運営維持ができるようにする。また、喫茶スペースや物販スペース等を儲け、私お風呂を開放する等お客様が居心地のいいキャンプ場になればいいな思っております。

③ゆず園→キャンプサイトへ

ゆず園として提供していた広場の土地所有者の方へ交渉をして、草刈等をし再びお客様が立ち入れる広場にする。また、この場所でもテントが張れるようにテントサイトを広げたらなお良い。

④しょうぶ園

水源を復活させ再度菖蒲が咲くように整備するか、埋め立ててテントサイトを増設する。または、ドックランにする。

⑤東屋・キャンプサイト

腐葉土・倒木・廃材の撤去をし、再びキャンプサイトとして利用できるようにする。

⑥耕作放棄地(別の場所でも可)→ドックランへ

耕作放棄地の再利用案として、ドックランを作る。犬を連れての移動やキャンプのお客様とのトラブル回避を考慮し、キャンプサイトから離れた場所がよいと考えています。

企画提案(ドックランをつくるにあたって)

候補地①	現在使用していない、または使用者がいない耕作地の転用 (農地転用が可能であれば、手続きは市役所と地区の方々と相談しながら進めたいと思います)
候補地②	現在の菖蒲園
ドックランとして確保したい広さ	1ヘクタール×2(約、100m×100m田んぼ1反分) 大型犬、小型犬をブロックを分け犬どうしが喧嘩をしないよう配慮する。 平らな場所とでこぼした山の立地を活かしたアップダウンフィールドと日陰エリア等を作成できたら理想です。
必要な設備	ラン内を囲む柵と2重扉(約1m~1.5m) 屋根付き休憩スペース、水飲み場、足洗い場、お散歩バックなどの荷物置き場、 うんち捨てる場所(キャンプ場炭捨場と併設)

参考・相談協力団体

参考団体施設/ひょうごアニマルサークル様



参考団体施設/ドックラン様



相談協力団体様/ペットの便利屋さんミネルバ様



【その他の地域活動】 粟井味噌づくり

粟井地区に残る伝統製造技術の伝承加工。

冬支度の生業として古くから各家庭での味噌作りの文化が残っており、粟井では寒い時期に合わせて近隣住民が集まり味噌を作るようです。今回、1月2日とお手伝いに参加しました。



【その他の地域活動】 お餅作り

粟井地区に残る伝統製造技術の伝承加工。

正月支度の生業として、古くから各家庭でお餅作りの文化が残っており、粟井では必要個数等の注文を聞き有志が時期に合わせて集まりお餅を作るようです。今回、12月にお手伝いで参加しました。以降、すこしずつですが、地域の方のお餅作りにも呼んでいただいています。



伝統製造技術の伝承加工を体験して、今後したい事について

①キャンプ場管理棟にて物販をする。

地域の味として喫茶スペースでお味噌やお餅を使用した飲食物を提供すると共に、販売をする。

キャンプのお客様がキャンプ飯の材料や、お土産などに購入して下さるのではないか...

②道の駅や各地域のイベント・マルシェなどでの販売・試食提供

粟井地区だけでなく、他の地域や市または県の方にも粟井の味噌を知ってもらい新しい物産になればいいなと思います。

【その他の地域活動】 マルシェの参加

粟井地区のパンフレット等を持参し、地域の情報発信の一環として東粟倉協力隊員の二名と共に「あわ×あわ通信協力隊」として美作市角南のプライベートキャンプ場バーバマーヤ様敷地内で開催のヒノアタルマルシェへ参加させていただきました。

